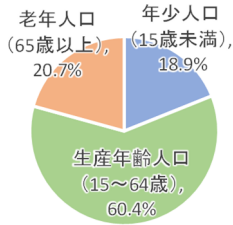


若松町 (わかまつちょう)

人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	111人
世帯数	45世帯
高齢化率	20.7%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 岸田川が日本海に注ぐ沖積平野に位置し、集落の山側を田君川が流れる。田君川は、以前は集落の下流の三谷地区で岸田川と合流していたが、大正7年(1918)の水害で堤防が決壊し、現在の流れに改修された。旧河道は農業用水路として残っている。集落の東側を県道浜坂井土線が走る。

地名由来 「若松町」は、旧浜坂町にできた新しい自治区で、町木クロマツの若松の成長に由来する予祝佳名として付けられた。

歴史等 若松町周辺は、古くから岸田川の氾濫により水害の被害を受けていたことが、遺跡の試掘調査などで確認されている。集落の後ろの尾根には帆立貝型前方後円墳の浦谷1号墳(ひさご塚)などの古墳群がある。戦国期には、近くにおどろが城(栃谷)などがあり、芦屋城主の塩冶氏と鳥取城主武田氏による庭中合戦が繰り広げられた場所でもある。近世の若松町は七釜村の区域で、かつて集落の山側を旧街道が通っており、現在も供養塔がある。

昭和16年(1941)に現在の直線道路「栃谷街道」が整備された。昭和40年代以降、県道浜坂井土線沿いの宅地開発が進み、新温泉町の商業地として発展した。平成29年(2017)には山陰近畿自動車道(浜坂~余部間)が開通した。

これまで把握している文化財

文化財の件数 5件 (うち指定等文化財 0件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等
有形文化財	建造物	建築物	0	0
		石造物	0	0
		工作物・その他の構造物	0	0
	美術工芸品	彫刻	0	0
		絵画	0	0
		工芸品	0	0
		書跡・典籍 古文書・歴史資料・考古資料	0	0
無形文化財	音楽	0	0	
	演劇	0	0	
	工芸技術	0	0	
	その他の無形文化財	0	0	
	信仰の場	0	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	祭具	0	0
		民具	0	0
		その他の有形の民俗文化財	0	0
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	0	0
		民俗技術	0	0
		食文化 民間説話・俗信 その他の無形の民俗文化財	0	0
記念物	遺跡	散布地・集落跡・生産遺跡	0	0
		古墳・その他の墓	5	0
		城館跡・寺社跡	0	0
		街道・古道等	0	0
		戦争遺跡	0	0
	その他の遺跡	0	0	
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0	0
		海岸・海浜・島嶼	0	0
		河川・滝・渓谷・湖沼	0	0
		公園・庭園	0	0
その他の名勝地		0	0	
動物・植物・地質鉱物	動物	0	0	
	植物 地質鉱物	0	0	
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	0	0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	0	0	



戸田の廻国供養塔



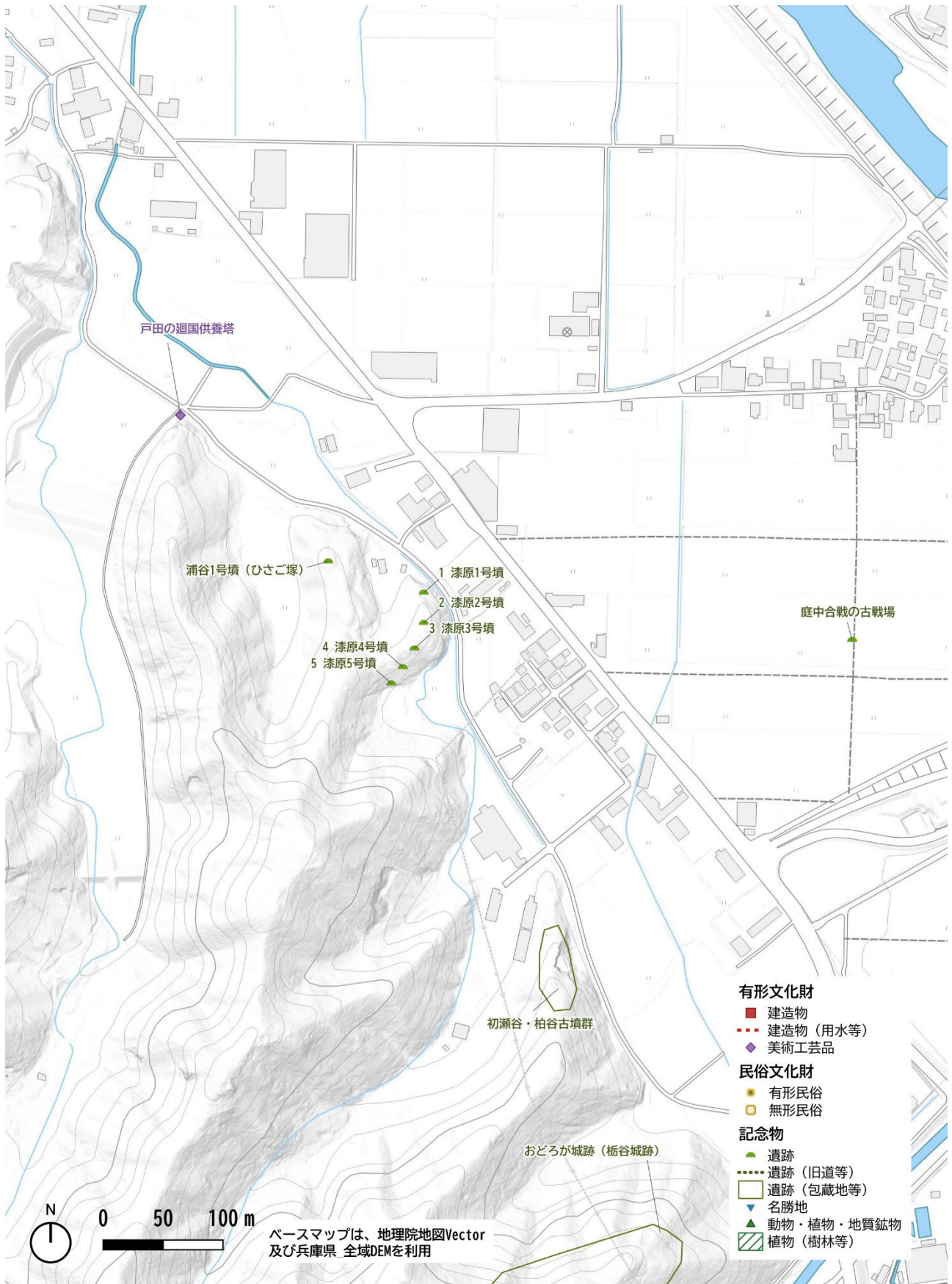
ひさご塚古墳



庭中合戦場跡

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

2-05 若松町

文化財の一覧

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
古墳・ その他の墓	1	漆原1号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）、一辺6m。玉石数個が散乱している。
	2	漆原2号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）、一辺6m。
	3	漆原3号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）、一辺6m。
	4	漆原4号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）、一辺6m。
	5	漆原5号墳	古墳時代の古墳。方形（階段状）、一辺6m。

※上記の他「区域の概要」に掲載する当地区付近の主な文化財の概要を示します。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	名称	概要
工芸品	戸田の廻国供養塔	旧浜坂湯村街道沿いに建てられている廻国供養塔。碑面は摩耗しており、文字・建立年等は不明であるが、江戸時代の建立と思われる。

■ 記念物／遺跡

分類	名称	概要
古墳・ その他の墓	浦谷1号墳（ひさご塚）	古墳時代の古墳。全長23m、後円径15m、高さ1.5m、帆立貝型前方後円墳。円筒埴輪・須恵器片が出土。
	初瀬谷・柏谷古墳群	弥生時代後期後葉、弥生時代終末期～古墳時代初頭、古墳時代後期の墳墓・古墳6基と、それに伴う埋葬施設22基を調査した。弥生土器・須恵器・土師器、青銅鏡、鉄製品、玉類などの遺物が出土した。浜坂道路の建設で消滅。
城館跡・ 寺社跡	おどろが城跡（栢谷城跡）	中世の城館跡。堀切・郭跡が残る。城は主郭は比較的広いものの、各曲輪群は小規模で、全体的には室町期の様相を呈しているが、戦国期に主郭土塁や堀切・塹堀や塹堀による補強・改修が加えられている。規模的には小国人クラスの城郭と考えられ、江戸期の二次資料によると塩冶氏とされる。
その他の遺跡	庭中合戦の古戦場	戦国時代の終わり頃、因幡国布施城主山名豊国と鳥取城の城主武田高信が勢力争いを行っていた。この頃、芦屋城主であった塩冶肥前守と武田高信は親戚関係にあったが、ふとしたことから犬猿の間柄となっていた。これを知った山名豊国は塩冶肥前守を味方に取り込んだ。これを知った高信は怒り、元亀2年（1571）芦屋城攻略のため但馬に進撃した。しかし、塩冶勢の反撃にあい、七釜城主、井土城主、黒坂城主などの軍勢が背後につき、武田勢は敗れた。塩冶勢はさらに追撃して、大庭田圃で武田勢と最後の戦いを行い、武田勢を打ち破った。戦死者の墓といわれる盛り墓が田の中に残っていた。

